

飛 翔

広島市立安佐中学校 生活だより

平成23年 8月 6日 No 37

夏休み前半終了、今日は全校登校日



夏休みも、ほぼ半分が終了しました。「勉強」に、「部活」にがんばっていますか？
毎日暑い日が続いています。早くも「夏バテ」している人はいませんか？

今日まで、「充実した毎日を送ってきた人」、残念ながら、「ダラダラ過ごしてしまった人」も、夏休み後半が、より充実したものになるように、計画の見直しをしてみるのも良いですね。夏休み後半を、より「有意義」なものにしましょう。

平和について考えよう



今日〔8月6日〕は、この「広島」に原爆が投下された日です。
1945年（昭和20年）8月6日8時15分、原子爆弾は、投下されました。
第二次世界大戦の末期、なぜ、原爆が使用されたのでしょうか？また、なぜ「広島」だったのでしょうか？しっかりと考えてみましょう。

原爆投下の理由

1943（昭和18）年5月、アメリカが原爆投下の対象に想定していたのはドイツではなく日本でした。翌年9月、アメリカとイギリスの首脳は、日本への原爆使用に向けて合意しました。米国が原爆投下を急いだ理由は、次の3点にあると思われます。

- ・日本をできる限り早く降伏させ、米軍の犠牲を少なくしたかった。
- ・1945（昭和20）年の米、英、ソ連の首脳によるヤルタ会談で、ソ連はドイツの降伏から3カ月以内に日本に参戦することを極秘に決めていた。米国はソ連の対日参戦より前に原爆を日本に投下し、大戦後世界でソ連より優位に立ちたいと考えていた。
- ・アメリカは原爆という新兵器を実戦で使い、その威力を知りたかったと同時に、膨大（ぼうだい）な費用を使った原爆開発を国内向けに正当化したかった。

なぜ広島だったのか？

1945（昭和20）年春から、アメリカは投下目標都市の検討を始めました。投下目標は、原爆の効果を正確に測定できるよう、直径3マイル（約4.8 km）以上の市街地を持つ都市の中から選び、空襲を禁止しました。7月25日には目標都市の広島、小倉、新潟、長崎のいずれかに対する投下命令を下しました。広島を第1目標とする命令を出したのは、8月2日。それは目標都市の中で唯一、連合軍の捕虜（ほりよ）収容所がないと思っていたためです。また、終戦までに日本の主要都市は米軍の空襲でほとんど壊滅状態でした。そのなかで、広島はまだ決定的な被害を受けていませんでした。広島が原爆投下の目標に選ばれた理由には、次の2点も考えられます。

- ・都市の大きさや山に囲まれた地形が、原爆の破壊力を探るのに適していたため。広島はまだ空襲を受けておらず、原爆の威力を確認しやすかった。
- ・広島には軍隊、軍事施設、軍需工場が集中しており、それらがまだ破壊されずに残っていた。8月6日、広島の天気は晴れ。広島の運命は決まりました。

被爆直前

前夜（8月5日）... 1945（昭和20）年8月5日の夜から6日の早朝にかけて、警戒（けいかい）警報・空襲警報がたびたび出され、市民は不安な一晚を過ごしました。6日の朝になってようやく警報が解除されて、街には職場に急ぐ人々、疎開（そかい）作業に動員されて現場に向かう人々など、月曜日の朝のふだんの生活にもどっていました。

街並み... 2つの川（本川と元安川）にはさまれたこの地区は、幕末から明治・大正期にかけて市内の繁華街（はんかがい）の中心で、中島本町通り商店街には大きな店舗（てんぽ）が並んでいました。木材の集散地であった材木町・木挽（こびき）町、商店街としての天神町・元柳（もとやなぎ）町・中島新町、そこには歴史の古い寺院も多く立っていました。しかし、当時は空襲を警戒して天神町、木挽町、中島新町は、建物疎開がすすんでおり、中島や本川国民学校の児童たちの一部は、郡部に疎開していました。

空襲... 1945（昭和20）年になると米軍はB29大編隊による夜間の無差別焼夷弾（しょういだん）攻撃を始め、全国各地の中小都市にまで攻撃を繰り返していました。広島は空襲らしい空襲を受けていませんでしたが、大規模な空襲に備えて火災の延焼防止と避難空地をつくるために木造家屋を取りこわし、また、町内会や家庭ごとに防空壕（ごう）をつくって、消火訓練や避難訓練などをしていました。

被爆直後

被爆（8月6日）... 1945（昭和20）年8月6日午前8時15分、それまでの広島は絵にかいたように美しく、静かな街でした。次の瞬間、目がくらむほどの閃光（せんこう）が走り、ドカーンという大音響とともに、たった1個の爆弾が広島の街を焼きつくしました。街全体が、一瞬にして破壊されました。爆心地から半径2キロメートル以内にいたほとんどの人々が亡くなり、建物も破壊されました。その年の終わりまでに、推定14万人前後の人々が亡くなるか行方不明となり、その数は、当時の市民約35万人の内のおよそ半分に相当します。

火葬... どのだれとも見分けがつかなくなった、おびたしい数の焼けた遺体は、その場で火葬するしかありませんでした。その間も死者は増えていきました。昼も夜も、市内のいたる所で遺体の上にまた遺体が積み上げられ、そして火葬されました。

焼け野原... 見わたすかぎりの焼け野原となった広島では、広島駅から宇品の港が見えたと言われています。市外から身内の安否を気づかって、または救援活動のため市内に入った人々が、残っていた放射能の影響を受け汚染されました。さらにこの年の秋、原爆の悲劇に追い打ちをかけるように枕崎（まくらざき）台風が広島を襲い、街は水びたしになり大きな被害を受けました。

（「ヒロシマの心を伝える会」ホームページより）

「戦争」、「原爆」について私たちは、その事実をしっかりと受けとめ、二度と繰り返すことのないように、考えていかねばなりません。そして、今のこの「平和」は、多くの人たちの犠牲と努力によってもたらされたものであることを再認識したいものです。

「争いのない社会、世界」を実現するために、私たちにできることは何なのか？

今日は、それを考えるよい機会だと思います。